

「家庭でできるアクティブラーニング」講座報告



1日目 なぜ「教えない授業」が学力を伸ばすのか

社会の変化と教育の変化。これからどのような教育が求められるのか。
教えないことで自律型学習者を育てるからくり。

受験偏重教育から非認知スキル型の教育へ

目標に向かって頑張る力

人とうまく関わる力

感情のコントロール力

※非認知スキル：自己肯定感・自立心など、人と関わる力

誰に教わっても大丈夫な自律した学びを確立する。

互いにコミュニケーションをとりながら、関係性を作る

⇒間違えることがダメではなく、間違えを可能性ととらえる教育に。

2日目 家庭でできる「教えない授業」

学校や先生に依存せず、自律した学びが家庭でできるようになるために親にできること。

アクティブ・ラーニング

今回の教育改革は、教え方にまで踏み込んで「主体的で深い学び (=アクティブ・ラーニング)」へ
Challenge Based Learning=社会課題の解決に向けチャレンジしていく学び (課題解決型学習)
課題を子どもたちと対等に考える ··· 世界を変える子どもたち

EX: スーパーの袋を全廃した子どもたち

プロジェクト保育 保育園でも課題解決型学習はできる。

卒園遠足はディズニーランドへの提案を多数決で決定 (民主主義ではない) するのではなく、
少人数の意見に耳を傾けることが民主主義。(新渡戸文化子ども園の事例)

PR : Public Relations パブリックリレーションズを取り入れる :

利他的: 誰かのために何かをする ⇒ そのために人間関係を良好にしていくスキル
『子どもたちのやりたいを伸ばす』ためには安心・安全の場をつくる

知識を覚える・指示に従う ⇒ ロボットができる ⇒ ロボットが仕事を奪う

ロボットができないことは? = 非認知スキル

就きたい職に就けなくても

何が目標でその職業に就きたいか (上位の概念) を確認する。

⇒やりたいことが無くなるわけではない、

医者になりたいのはなぜ? ··· 病気の人を治したい ⇒ 医者がだめでも看護師や薬剤師
医者になることが目的になりがち



別の道もある

⇒やりたいことを増やす

特性に合ったものを選ぶ

学力はやりたいを見つけたら伸びる

子どもを育てる4つの大きな視点

- ① 視点を未来に繋げる
- ② 学びをリアルな社会課題につなげる
- ③ ワクワクさせる
- ④ 続けるための4つの心構え

1 「forgive の精神」 許す ⇒ 愛情

2 「プラスマイナスの法則」 いい時も悪い時もある。悪いことをプラスに持っていく
できなかったことは可能性である

3 「100回の法則」 あきらめる前に100回やってみよう

4 「習慣を変える with」 主が副を変える。 コマーシャルの合間に音読・宿題

～ アンケートから ～

- ・思っていたより家庭だけでなく世界に向けての話で驚いた。
 - ・生徒自ら学ぶ姿勢を忘れずに授業をいかに面白くするかが重要だと思いました。
 - ・親として、家族にも伝えたい（伝えるべき）ことに気づきました。
 - ・もっと知りたいと気づく話題が沢山ありました。ワクワクしました。
 - ・子どもたちが今日のような先生の授業を受けたら、どんなふうに思ったり、考えたりするのだろう？と思いながら聞きました。ハッピーになりそうな感じがします。
 - ・家庭に戻ったら、今までよりもっと自由に楽に過ごせるようにしたいと思いました。
 - ・学校のせいにせず、自律して学ぶことを身に着けさせることが大切だという事に、大感銘を受けました。
 - ・子どもたちが幸せに学べる環境づくりをサポートできるよう今後アクティブ・ラーニングについて考えを深めていきたい。
 - ・学校に頼らず、「考える」「試行錯誤させる」という事を身に着けさせるべきかさらに教えていただきたいと思いました。
 - ・子どもの教育は学校だけで完結するものではないと考えています。
家庭や地域も大切な役割を担っており、公民館が果たすべき役割という視点からも、とても意義のある講座だと思います。

